

特別寄稿 原生物 (原生動物) 関連の国際学会について

春本晃江 (奈良女子大学, 奈良先端科学技術大学院大学, 国際委員 2012年–2021年)

本稿を書かせていただいた理由は、原生物学関連の国際学会の沿革について知る人が少なくなってきたこと、国際学会の成り立ちや組織について、会員間で意外に知られていないこと、過去の国際学会の情報は調べることがなかなか難しいと思われたことがある。なるべく早く、これまでの国際学会の沿革についてまとめておくことが必要と考え、私が把握している原生物学関連の国際学会についてまとめてみた (表 1)。ただし、今回は日本原生物 (原生動物) 学会が主に参加旅費援助を行ってきた 3 つの国際学会、1) International Congress of Protistology, 2) European Congress of Protistology, 3) Asian Congress of Protistology と、4) 日韓合同ミーティングに留めており、本学会の会員が従来よく参加してきた Ciliate Molecular Biology Conference や International Society for Evolutionary Protistology (ISEP) については記載していないことをお断りしておきたい。また、これは私の主観も入った寄稿であることをご了解いただきたい。

1) International Congress of Protozoology (第 12 回大会までは International Congress of Protozoology) (以下 ICOP と略)

第 1 回大会は 1961 年にチェコ (当時はチェコスロバキア) のプラハで開催され、その後ほぼ 4 年に 1 度、国際大会を開催して現在に至っている。60 年以上にわたる歴史があり、参加者数や参加国数で原生物学関連では最も大きな国際学会である。

ICOP を運営するのは International Commission on Protozoology (2009 年より International Commission on Protistology) であるが、この国際委員会の発足に至るまでの経緯は、原生動物学雑誌 (第 1 巻第 1 号) に、当時、日本原生動物学会の 14 名の幹事 (会長は猪木正三氏) の一人であった阿部徹氏により詳しく述べられている (阿部 1968)。世界各国の原生動物学者を束ねる超国家的な機関の設立が必要であることを認識し、相互に対等な立場で学会の運営を進めるとした国際委員会の趣旨は今も生きていたい。この国際委員会は、正式には第 2 回大会 (London UK, 1965) の後で設立され (阿部 1968, Corliss 1998)、第 3 回大会 (Leningrad USSR, 1969) で、International Union of Biological Sciences (IUBS) の Zoology Section の commission として正式に認められたという (樋渡 1986)。この国際委員会は設立当初、13 カ国より 19 名の委員で構成されていた。この国際委員会設立の声明文と設立当時の構成員に日本人が名前を連ねていることを誇りに思う。

なお、日本の原生動物学会の初期の頃のエピソードや国際学会との関係については、「日本原生動物学会の生い立ち」 (原生物学雑誌第 36 巻第 2 号) に詳しく述べられている。

ICOP は、4 年に 1 度大会を開催してきたが、2021 年に開催予定であった第 16 回大会は、新型コロナウイルス

感染症拡大防止のために延期された (2025 年に韓国ソウルで開催予定)。私は第 8 回大会から第 15 回大会まではほぼ毎回参加 (第 11 回と第 16 回は不参加) させていただいたが、それぞれの国の文化に触れ、各国の原生物学者たちと夜遅くまで語り合った思い出は何ものにも代えがたい。中でも忘れがたい記憶として残っているのが、1989 年の第 8 回筑波大会である (7 月 10 日 ~ 7 月 17 日)。樋渡宏一氏を大会長として筑波大学大会館で開催されたこの大会は、38 カ国と 2 地域より 371 名の参加者があり、6 つの Plenary lectures, 16 のシンポジウム, 105 題の口頭発表と 95 題のポスター発表という規模の大きな国際学会となった (樋渡, 高橋 1990)。アジアで行われたにも関わらず、北米やヨーロッパ各地からも多くの参加があり、これほど多くの原生物の研究者が一度に日本に来日したことは過去にはなかったであろう。当時、私はイタリアのカメリーノ大学で研究を行っており、娘が生まれてひと月後の大会にやっとの思いで参加することができた。Paramecium のトリコシストの防御機能について新しい発見を発表することができ、非常に思い出深い大会となった。

ICOP の International Commission on Protistology の位置づけであるが、まず International Society of Protistologists (ISOP または ISoP) について述べたい。この前身である Society of Protozoologist は 1947 年に米国で設立され、2005 年に International Society of Protistology と名称変更された。設立当初から常に国際的な立場を取ることを提唱してきており、米国以外の会員も多い。1954 年より The Journal of Protozoology (1993 年からは The Journal of Eukaryotic Microbiology) を刊行している。ISOP には、いくつかの国の原生物 (原生動物) 学会が Affiliated Section (支部) として加入していた。日本原生動物学会もこれに加わるかどうかについては長年の議論があったが、ずっと加わらないで来た。日本原生動物学会は ISOP とは対等の立場にあるので、その支部になるのは抵抗があるというのが大きな理由であったようだ。しかし 2014 年に原生物学会の評議員会で承認され、Affiliated Society になるという報告が突然会員にメールで周知された。ただしこの位置付けは、支部ではなく、提携学会といった方がふさわしいと思われる。Society Affiliates は、毎年、学会活動のレポート (Annual Reports) を ISOP に提出することになっている。

上に述べたように、ICOP を運営する International Commission on Protistology は、設立当時より ISOP とは独立の組織であったが、経済的な理由や組織運営の難しさから、第 14 回大会 (2013) を前に、大会長の Denis Lynn らの呼びかけがあり、議論の末、第 15 回大会 (2017) より ISOP の Standing Committees (常任委員会) の 1 つとなった。この大きな変革に、各国の国際委員からは賛否両論があったと聞く。国を超えての

International Commission であるはずなのに、なぜ米国中心の ISOP の傘下に入らねばならないのかという疑問は当然浮かんでこよう。しかし、最終的にこの案が認められ、International Commission on Protistology は、現在では ISOP の International Committee となっている。ISOP の細則 (Bylaws) (<https://protistologists.org/bylaws-of-the-international-society-of-protistologists/>) によると、この国際委員会の委員長は ISOP の副会長が務め、副委員長は次期 ICOP の大会長が務めることになっている。この国際委員会に出席できる各国の投票権のある委員の数は設立当初より決められており、細則にも、会員数が 20 名から 99 名までの学会は 1 名、100 名から 299 名までは 2 名、300 名以上の会員数の場合は 3 名の投票権のある委員を出すことができるとされている。従って日本原生生物学会は、現在のところ 2 名の委員を出すことができる。ICOP の大会に当たっては、会長と国際委員は、国際委員 2 名が大会に出席できるのかどうかを参加登録の締切り前に把握し、欠席する国際委員が出る場合には、出席予定者の中から代理人を選ぶようにしてきたが、近年、それが徹底されていないことがあるのは残念である。International Committee では、議論の末に委員の賛否で議決することもあり、委員の出席数は重要な意味をもつ。会員数に応じて出席できる委員の数が決まっているのもそのためである。日本原生生物学会は国際委員会の構成員であることを認識し、その責務を果たすことを望みたい。

2) European Congress of Protozoology (第 1 回大会は European Congress of Protozoology) (以下 ECOP と略)

第 1 回大会は 1992 年にイギリスのレディングで開催され、その後ほぼ 4 年に 1 度開催されてきた。当初は、ECOP はヨーロッパのそれぞれの国の原生生物 (原生動物) 学会が中心となって運営してきたが、第 4 回大会 (イタリア, 2003) で、ヨーロッパ各国の原生生物 (原生動物) 学会から成る Federation of European Protistological Societies (FEPS) の設立が合意され (Sleigh M 2006), その後は、ECOP は FEPS によって運営されている。現在、FEPS はヨーロッパに位置する 11 の国や地域の原生生物 (原生動物) 学会 (またはグループ) で組織されている。ECOP は European Conference on Ciliate Biology や ISOP の年大会と合同で行われることも多かったので、表 1 には European Conference on Ciliate Biology の過去の大会についても記載している。次回は 2023 年にオーストリアのウィーンで開催 (ドイツの原生生物学会がホスト) が予定されている。

3) Asian Congress of Protistology (以下 ACOP と略)

第 1 回大会は 2011 年に韓国の済州島で行われた。その後、3-4 年に 1 回開催されており、第 2 回大会 (2014) はインド、第 3 回大会 (2018) は中国で開催され、第 4 回 (2021) は日本でオンラインで開催された。ACOP を運営するのは、各国の原生生物 (原生動物) 学会であり、そこが中心となって ACOP 国際委員会を組織しているが、大会長を務めた者が、次期 ACOP 国際委員会の会長になることが慣例とされているほか

は、ACOP 国際委員会について定められた規程はない。今後の運営の安定性を思うと、何らかの組織を設立し、ACOP と ICOP や ECOP との連携も考えるべきかと思う。

ACOP はこれまで Asian Conference on Ciliate Genetics (第 1 回大会は 1983 年) と合同で開催されたことも多いので、表 1 にはこの大会についても載せている。Asian Conference on Ciliate Genetics は ACOP の前身の大会と言えなくもないので、Asian Conference on Ciliate Genetics の第 1 回大会から ACOP の現在までの大会開催地を集計すると、日本 4 回、中国 4 回、韓国 1 回、フィリピン 1 回、インド 1 回となり、次の開催国を考える参考になるかもしれない。また、より多くのアジアの国々での開催を模索したい。

4) 日韓合同ミーティング

第 48 回日本原生生物学会大会 (2015 年, 東京) において、初めて韓国の原生生物学会 (Korean Society of Protistologists: KSOP) との合同企画として「日韓合同シンポジウム JSP-KSOP Joint Meeting 2015」が開催された。韓国からの参加者は 19 名であった。次に、2018 年に「KSOP-JSP Joint Meeting」が済州島で行われ、日本からは 19 名が参加した。2020 年には日本の年大会と合同で「JSP-KSOP Joint Meeting」がオンラインで開催された。日本から 79 名、韓国から 54 名、その他の国からは 18 名が参加し、計 151 名の大きな大会となった。このように定期的に韓国と合同ミーティングを開催することで、お互いの顔や研究内容をよく知ることができ、日韓の研究交流に大いに役立った。この成果は 2021 年の ACOP の大会の円滑な運営にもつながった。今後も韓国とはよりよい関係を続けて行ければと思う。

日本原生生物学会は、2020 年と 2021 年に続けて 2 回の国際学会をオンラインで開催した。コロナ禍の中でも、何とかして国際的な研究交流を維持したいとの思いからであったが、他の学会のオンラインの開催方法を参考にしつつ、Zoom や SpatialChat を駆使した大会は好評であったと思う。時差という問題はあがあるが、海外からでも容易に大会に参加することができ、会場にいるよりもスライドやポスターが見やすかったとの意見も聞く。参加者数も 2021 年の ACOP では 25 の国と地域から 234 名の参加があり、それまでの ACOP の参加者数を大きく上回った。今後はオンラインでの開催が増えると予想されることから、この 2 つの大会で得たノウハウは今後の国際大会に大いに参考になると思われる。

最後に、日本原生生物学会の会員が国際学会に参加・発表するだけでなく、世界の原生生物学会の中で本学会が果たすべき役割を再認識し、より一層国際的に活躍していただきたいとの願いを込めてこの寄稿の結びとしたい。

参考文献

Corliss J. O. (1998) The Golden Anniversary of the Society

of Protozoologists (1947–1997), *J. Eukaryot. Microbiol.* 45:1–26.
 Sleigh M. (2006) The Federation of European Protistological Societies, *Europ. J. Protistol.* 42:1.
 阿部徹 (1968) 「原生動物学会汎世界連盟について」
 原生動物学雑誌 第1巻第1号 P. 30–33.
 樋渡宏一 (1986) 「第7回国際原生動物学会議 (ナイロビ) の報告と第8回国際原生動物学会議 (1989年)

の日本開催」原生動物学雑誌 第19巻第1号 P. 48–51.
 樋渡宏一, 高橋三保子 (1990) 「第8回国際原生動物学会議報告」原生動物学雑誌 第23巻第1号 P. 19–31.
 原生動物学会座談会 (2003) 「日本原生動物学会の生い立ち」原生動物学雑誌 第36巻第2号 P. 129–140.

表1 原生生物 (原生動物) 関連の主な国際学会の沿革

ACOP関連	ICOP関連	ECOP関連	日韓関連
3–4年に1回開催	ほぼ4年に1回開催	ほぼ4年に1回開催	2–3年に1回開催
1961	I International Congress of Protozoology Prague, Czechoslovakia		
1962			
1963			
1964			
1965	II International Congress of Protozoology London, UK		
1966			
1967		I European Conference on Ciliate Biology Edinburgh, UK	
1968			
1969	III International Congress of Protozoology Leningrad, USSR		
1970			
1971		II European Conference on Ciliate Biology Paris, France	
1972			
1973	IV International Congress of Protozoology Clermont-Ferrand, France		
1974			
1975		III European Conference on Ciliate Biology Münster, Germany	
1976			
1977	V International Congress of Protozoology New York City, USA		
1978			
1979		IV European Conference on Ciliate Biology Camerino, Italy	
1980			
1981	VI International Congress of Protozoology Warsaw, Poland		
1982			
1983	I Asian Conference on Ciliate Genetics Sendai, Japan	V European Conference on Ciliate Biology Geneva, Switzerland	
1984			
1985	VII International Congress of Protozoology Nairobi, Kenya		
1986	II Asian Conference on Ciliate Genetics Shanghai, China		
1987		VI European Conference on Ciliate Biology Aarhus, Denmark	
1988			

(次頁へ続く)

(前頁の続き)

ACOP関連	ICOP関連	ECOP関連	日韓関連
3-4年に1回開催	ほぼ4年に1回開催	ほぼ4年に1回開催	2-3年に1回開催
1989	VIII International Congress of Protozoology Tsukuba, Japan		
1990			
1991		VII European Conference on Cell and Molecular Biology of Ciliates Toledo, Spain	
1992	III Asian Conference on Ciliate Genetics, Cell Biology and Molecular Biology Shenzhen, China	I European Congress of Protozoology Reading, United Kingdom	
1993	IX International Congress of Protozoology Berlin, Germany		
1994			
1995	IV Asian Conference on Ciliate Genetics Tokyo, Japan	II European Congress of Protistology and VIII European Conference on Ciliate Biology Clermont-Ferrand, France	
1996			
1997	X International Congress of Protozoology Sidney, Australia		
1998	V Asian Conference on Ciliate Genetics Manila, Philippines		
1999		III European Congress of Protistology and IX European Conference on Ciliate Biology Helsingør, Denmark	
2000			
2001	XI International Congress of Protozoology Sarzburg, Austria		
2002	VI Asian Conference on Ciliate Genetics Tsukuba, Japan		
2003		IV European Congress of Protistology and X European Conference on Ciliate Biology San Benedetto del Tronto, Italy	
2004			
2005	XII International Congress of Protozoology Guangzhou, China		
2006	VII Asian Conference on Ciliate Genetics Wuhan, China		
2007		V European Congress of Protistology and XI European Conference on Ciliate Biology St. Petersburg, Russia	
2008			
2009	XIII International Congress of Protistology Rio de Janeiro, Brazil		
2010			
2011	I Asian Congress of Protistology and VIII Asian Conference on Ciliate Genetics Jeju, Korea	VI European Congress of Protistology Berlin, Germany	
2012			
2013	XIV International Congress of Protistology Vancouver, Canada		
2014	II Asian Congress of Protistology Kalyani, India		
2015		VII European Congress of Protistology and the Annual Congress of International Society of Protistologists (ISOP) Seville, Spain	JSP-KSOP Joint Meeting Tokyo, Japan

(次頁へ続く)

(前頁の続き)

	ACOP関連	ICOP関連	ECOP関連	日韓関連
	3-4 年に 1 回開催	ほぼ 4 年に 1 回開催	ほぼ 4 年に 1 回開催	2-3 年に 1 回開催
2016				
2017		XV International Congress of Protistology and 2017 ISOP Annual meeting Prague, Czech Republic		
2018	III Asian Congress of Protistology Guangzhou, China			KSOP-JSP Joint Meeting Jeju, Korea
2019			VIII European Congress of Protistology and the Annual Congress of International Society of Protistologists (ISOP) Roma, Italy	
2020				JSP-KSOP Joint Meeting Kobe, Japan (online)
2021	IV Asian Congress of Protistology Kobe, Japan (online)	XVI International Congress of Protistology Korea (postponed)		
2022		XVI International Congress of Protistology Korea (postponed again)		